

滝野地域小中一貫校 実施設計概要



令和7年3月 加東市教育委員会

1 設計方針（基本コンセプト）

○加東市がめざす小中一貫教育の推進ができる学校

- ・4 -3 -2 制に則した教室配置
- ・児童生徒の発達段階への対応
- ・日常的な異学年交流
- ・多様な学びの形態への対応
- ・教職員の業務を円滑にする

○地域とともに全ての世代間の交流ができる学校

- ・地域のシンボルとなり、誇りに思える施設
- ・地域交流ができる施設
- ・ふるさとの歴史・文化を大切にする

○安全・安心な環境を備えた学校

- ・児童生徒の活動が把握できる
- ・安全通行への配慮
- ・災害対応、避難所機能への配慮
- ・衛生管理への配慮
- ・ユニバーサルデザインの採用

○快適でゆとりのある学校

- ・豊富な掲示や展示等のできるゆとり
- ・明るさ、風通しの確保
- ・スムーズな移動

○脱炭素社会に貢献する持続可能な学校

- ・環境にやさしい施設
- ・木の温かみやぬくもり
- ・維持管理、修繕への配慮

2 配置計画

(1) 3つの道を軸としたマスタープラン

- ・児童生徒、地域、すべての人の活動や交流のつながりを生み出す**3つの道（動線）**を整備します。
- ・3つの道が交差することで、増築校舎と既存校舎の**一体性を創出し**、施設一体型小中一貫校のメリットを象徴する空間の骨格が生まれます。
- ・南北、東西に視線が通ることで、敷地全体に人の目が届きやすい計画となります。

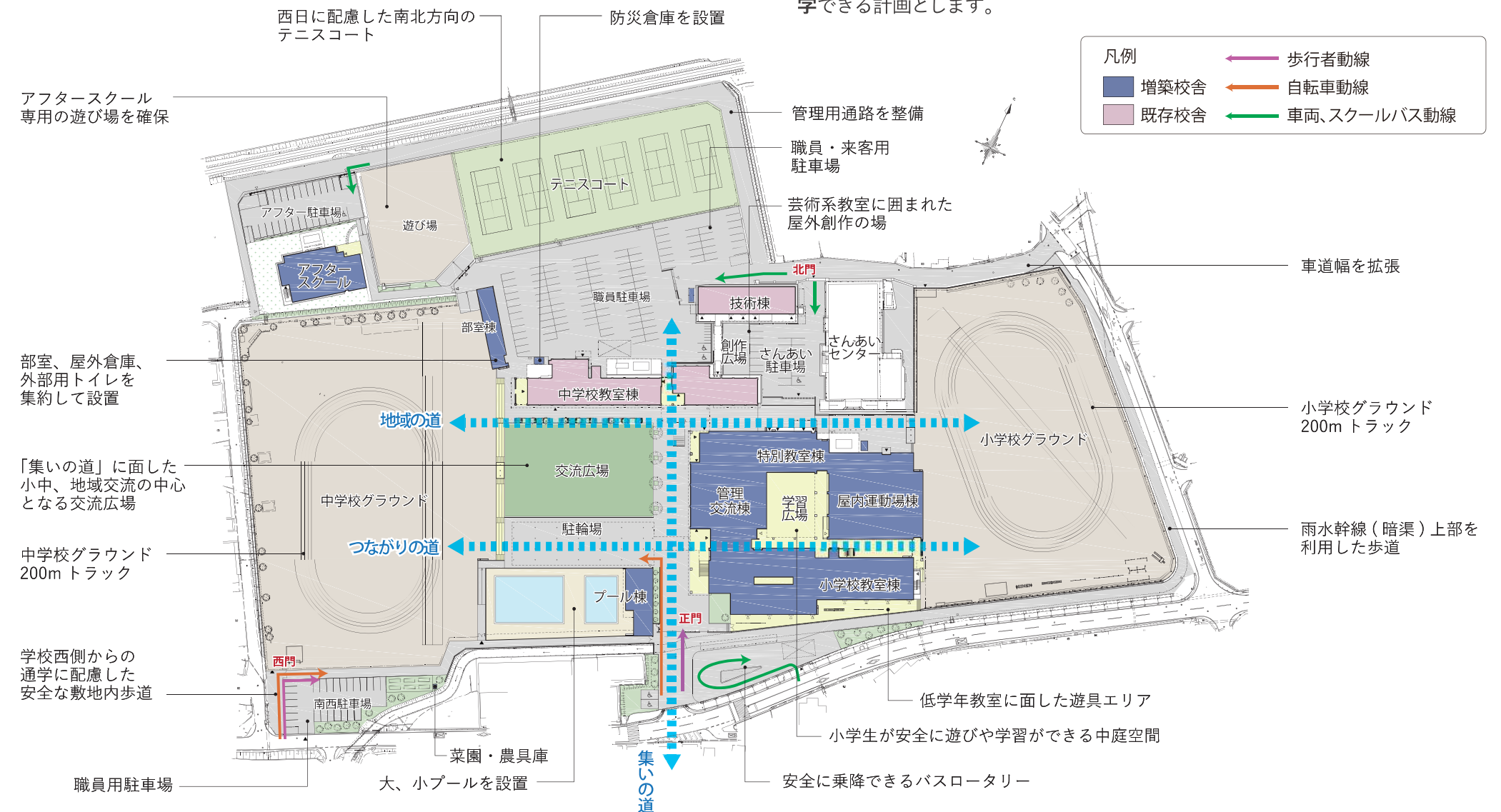
- ①**「集いの道」**:敷地を南北に貫く**中心軸**。この道を中心として既存施設や増築施設、広場が展開することで、**出会いや交流**が生まれ活動の輪が広がります。
- ②**「つながりの道」**:小学校グラウンドと中学校グラウンドを一直線につなぐ**東西軸**。様々な活動がお互いに見え、**興味や刺激の与え合い**を可能とします。
- ③**「地域の道」**:さんあいセンター、屋内運動場棟と中学校教室棟1階に設けた地域交流室の前を東西に一直線につなぎ、**地域開放時の交流軸**をつくり出します。

(2) 運用に配慮した校舎配置

- ・校舎は管理交流棟を中心として**コンパクトに各棟を集約し**、児童生徒の日常移動がスムーズにできる計画とします。
- ・グラウンドは小学校用と中学校用に分けることにより**体格差による事故を防止**する計画とします。
- ・子ども達の**活動が展開する3つの広場**を設け、学校全体に**1~9年生の活動の輪**が広がる計画とします。
- ・アフタースクールは敷地北西角に設け、単独でも運用しやすい計画とします。

(3) 明快なアプローチと安全な動線計画

- ・「集いの道」から小学校教室棟、中学校教室棟、管理交流棟の各棟にアクセスできる**明快な動線計画**とします。
- ・車両進入は北側に集約し、敷地内の**歩車分離を明確**にします。
- ・正門周りの拡張、敷地外周の歩道、敷地内通路の整備により**児童生徒が安全に通学**できる計画とします。



【敷地概要】

建設地 : 兵庫県加東市下滝野761番ほか
敷地面積 : 50,608.67 m² (小中一貫校)、4,220.64 m² (アフタースクール)
区域の指定 : 市街化調整区域 (現在)→市街化区域 (R8年3月予定)
用途地域 : 無指定 (現在)
→第1種中高層住居専用地域 (R8年3月予定)
防火地域 : 指定なし→法22条区域 (R8年3月予定)
建ぺい率 : 60%
容積率 : 200%

【建物概要】

	<小中一貫校>	<アフタースクール>
施設用途	小学校、中学校	児童福祉施設
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨、鉄骨鉄筋コンクリート造	鉄骨造
規模	地上4階建て	地上2階建て
建築面積	7,933.59 m ² (付属棟含む)	519.19 m ²
延床面積	17,607.69 m ² (付属棟含む)	984.31 m ²
建物高さ	23.211m	7.966m

3 平面計画

(1) コンパクトで機能的、見通しの良い施設計画

- ・学習広場を中心とする回遊動線で各ゾーンがつながるコンパクトで機能的な平面計画とします。
- ・見通しを良くし、死角をつくらないことで、教職員の目が行き届きやすい計画とします。
- ・行き止まりがなく回遊性があるため、児童生徒の機能的な移動を促進し、活動が連続します。

(2) 共用部について

- ・1,2年生・3~6年生・7~9年生で昇降口を分けることで、小中学生の体格差や登下校時の混雑に配慮した安全な計画とします。
- ・トイレ、更衣室は各階の学年毎に分散して配置し、利用しやすい計画とします。
- ・3階に配置した多目的ホールは学年集会や異学年交流、各種発表など様々な交流、活動の場として利用します。

(3) 普通教室について

- ・普通教室は4・3・2制の学年ステージに沿った階別、棟別構成とします。
- ・1,2年生と3,4年生、5,6年生と7年生、8年生と9年生の学年毎のまとまりを持ちながら、小学生エリアと中学生エリアに分け、各ステージの中でも、ゆるやかに環境を変えた各年代に適した学習環境を整えます。
- ・中学校教室棟3階に7年生を配置することで、5,6年生とのつながりを持ちながらも中学生エリアにも属する計画とします。

(4) 特別支援教室について

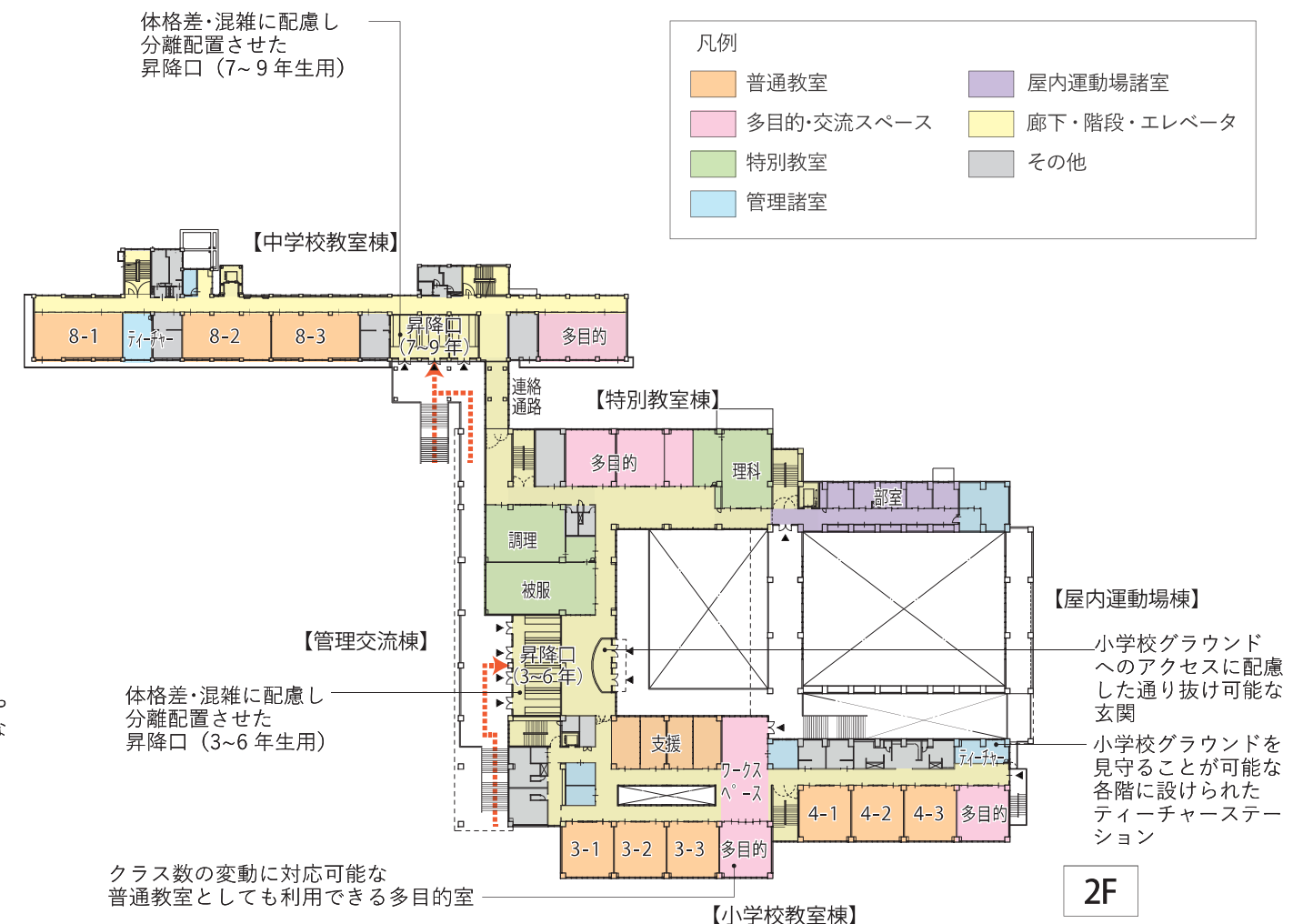
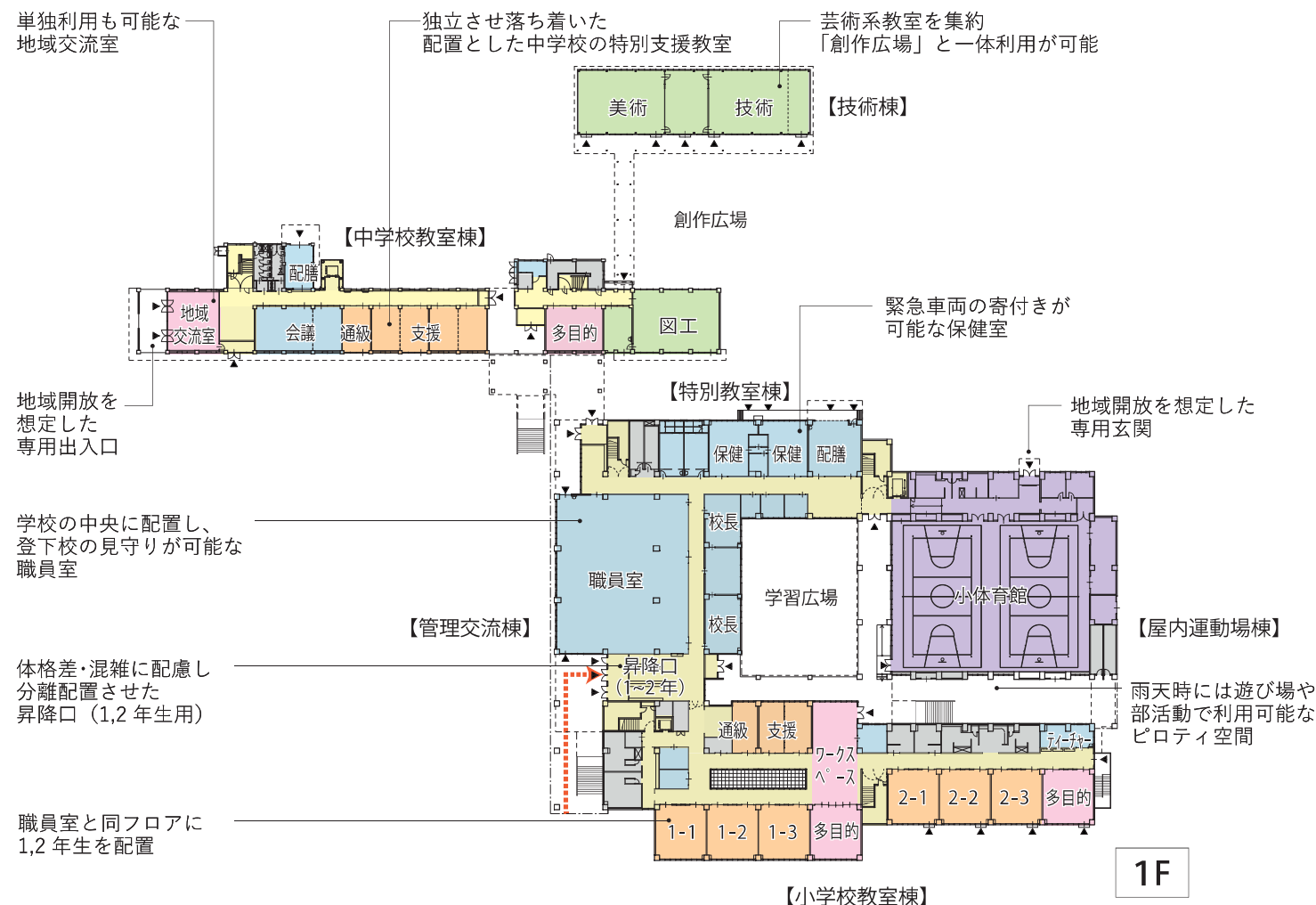
- ・1~6年生の特別支援教室は学習広場に面した北側の落ち着いた環境に配置し、インクルーシブ教育にも配慮しつつ支援エリアを形成します。
- ・7~9年生が利用する特別支援教室は中学校教室棟の1階に集約し、専用の出入口を設けることで、通級も行いやすい計画とします。
- ・特別支援教室はトイレやエレベーターからアクセスの良い位置とします。

(5) 特別教室について

- ・特別教室は小中それぞれの普通教室からアクセスしやすい、校舎中央に配置する計画とします。
- ・図書室は新旧校舎をつなぐ管理交流棟に配置し、どの学年からも使いやすい位置とすることで異学年交流を促進します。

(6) 管理部門について

- ・職員室は正門周りやグラウンド、1,2年生の普通教室に近い管理交流棟1階に設ける計画とします。
- ・既存、増築校舎ともにティーチャーステーションを設けることで児童生徒の見守りを可能とします。また、教室に近い位置で作業ができるため教職員の負担を軽減させます。
- ・小中それぞれに保健室を設け、相談室を近接配置することで、独立した心と身体のケアゾーンを形成します。保健室は緊急車両の寄り付きが可能な配置計画とします。



3 平面計画

(7) 屋内運動場棟について

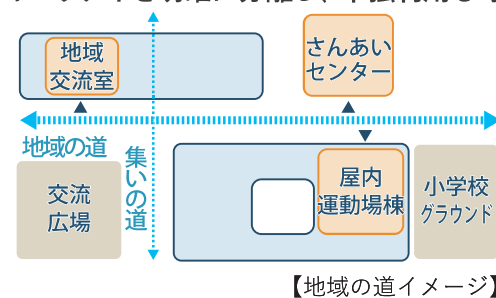
- ・小アリーナを1階、大アリーナを3階に配置する計画とします。
- ・地域開放に配慮し、「地域の道」に面してアリーナ専用の玄関を設ける計画とします。
- ・休日や夜間などの屋内運動場棟のみの利用を想定し、学校エリアとの間に管理扉を設け、**単独運用可能な計画**とします。

(8) プール・部室棟について

- ・プール棟は敷地南側に設けることで、**日当たり**に配慮します。
- ・近隣住宅が近接しているため、プール外周は目隠し壁、住宅側に防音壁を設ける計画とします。
- ・部室棟は中学校グラウンド、テニスコート、校舎から**利用しやすい中学校グラウンド北東角**に設ける計画とします。

(9) 地域開放について

- ・屋内運動場棟、中学校教室棟1階の地域交流室を**地域開放可能な計画**とします。
- ・「地域の道」に面して地域利用が想定されるさんあいセンター、屋内運動場棟、地域交流室の出入口を集約し、**地域活動を行いやすい地域軸を形成**します。
- ・地域交流室は学校施設とは**セキュリティを明確に分離**し、単独利用も可能な計画とします。
- ・交流広場に地域交流室を面することで、広場を活用した様々なイベントに対応が可能となり、**地域活性化に向けたコミュニティの場**としての利用を目指します。



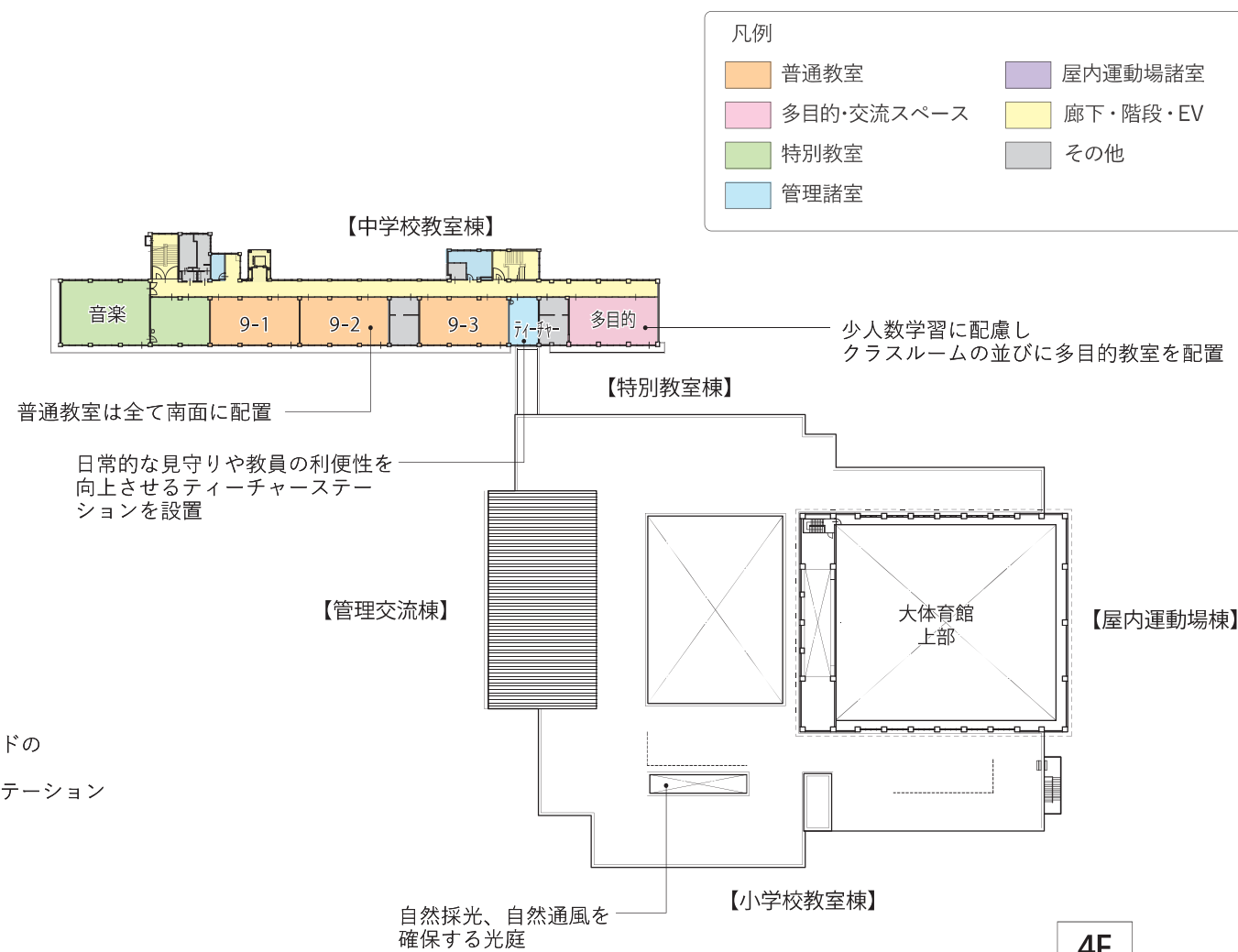
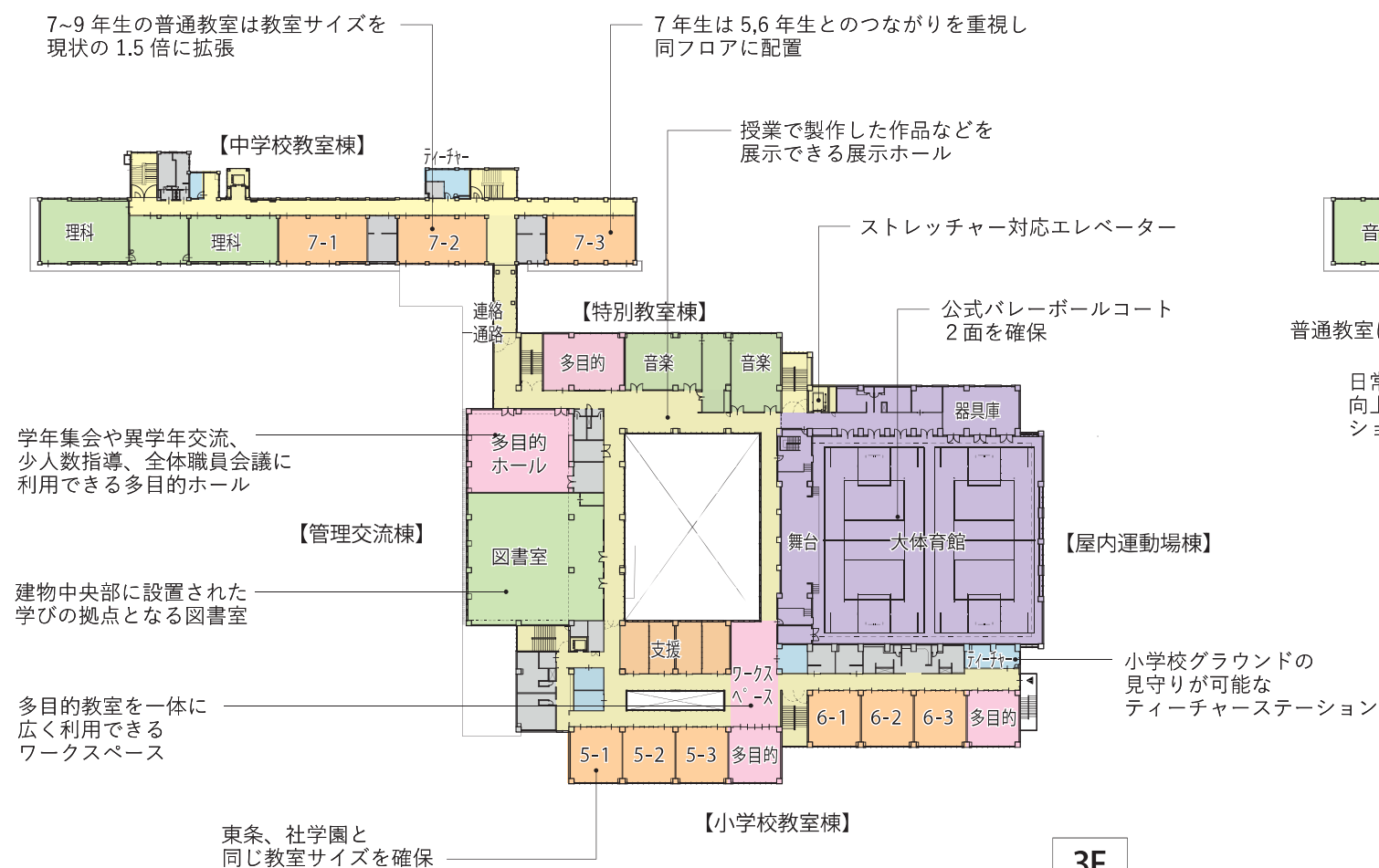
4 児童生徒が健やかに学習、生活できる環境づくり

(1) 学習、生活環境

- ・展示ホールや廊下に掲示壁を設けることで、児童生徒が**刺激し合い、活動や交流の発信を促進**できる計画とします。
- ・児童生徒が**様々な活動を展開**できるように、雨の日も遊べる屋根のある空間（ピロティ）を設けます。

(2) みんなにやさしく、使いやすい学校

- ・児童生徒や教職員だけではなく、地域の活動の場であることを考慮し、子どもから高齢者、障がいの有無に関わりなく**誰もが使いやすいユニバーサルデザイン**に配慮した施設とします。
- ・1～9年生まで体格差の異なる児童生徒が利用する施設として**各成長段階に合わせた空間の作り方**に配慮した計画とします。



5 防災計画

(1) 防災・減災への対応

- ・校舎は**耐震構造**として、震災に備えます。
- ・水害による浸水を考慮し、敷地外から正門までの間で**地盤レベルを1.5m上げる**計画とします。また、**2階レベルを前面道路+5m以上の高さ**に設定します。
- ・構造体だけでなく、耐震金物による天井下地の落下防止や設備機器類の脱落防止や耐震支持、ガラスの飛散防止、棚類の壁面固定など、建築二次部材、設備機器、家具什器類の耐震安全性を確保します。

(2) 避難所としての機能

- ・日常の安全性・利便性に加え、災害発生時には学校の機能を利用して、速やかに**避難所に転換できる施設計画**とします。
- ・避難スペースとなる屋内運動場棟は隣接するさんあいセンターやグラウンドと連携しやすい配置計画とします。
- ・大アリーナ（避難所）は3階、キュービクルは屋上に設置します。

6 環境配慮計画

(1) 滝野の自然を生かした環境整備

- ・加古川に沿って流れる風をつかむ建物配置、窓の位置とし、春、夏、秋に自然の風を取り入れ、建物を涼しくし、**快適な教育環境**とします。
- ・普通教室は**全て南向き教室**とし、明るく暖かく風通しの良い学習環境をつくれます。
- ・増築校舎中央の学習広場や光庭を設けることで**安定した光環境の確保と自然通風を促進**します。

(2) 省エネルギー技術の採用

- ・床、外壁、屋上は断熱材を適切に施し、窓は複層ガラスとして**建物全体の高断熱化**を図ります。
- ・防汚性、耐久性の高い内外装仕上を選定し、**維持管理のしやすさに配慮**します。
- ・LED照明の全面採用や人感センサー設置、トイレなどに節水型器具を採用し、**省エネ化**を図ります。

7 外観、内観計画

(1) 外観計画

- ・増築校舎外観は加古川の流れをイメージした**水平基調の伸びやかな構成**とし、既存校舎バルコニーの水平ラインと調和を図ります。
- ・増築校舎は3階建てとし、建物の平面や壁面形状の工夫により圧迫感を低減させ、**まちなみに合わせたスケール**とします。
- ・外壁は落ち着いた色彩計画とすることで、**周囲の山並みやまちなみとの調和**を図ります。

(2) 内観計画

- ・手や目に触れやすい箇所などに効果的に木を使い、木の温かみに包まれた落ち着きと**安らぎのある空間づくり**を行います。
- ・ゾーニングに合わせたエリアカラーデザインや、サイン等も含め、**成長段階に合わせた空間設計**を行うことで、**9年間の長い学校生活に変化を与える計画**とします。

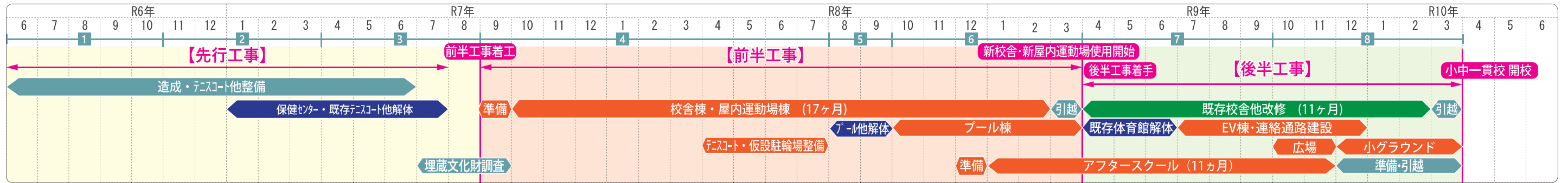


外観イメージ

- 左上：交流広場から見た増築校舎
- 右上：正門付近から見た増築校舎
- 左下：南側からの鳥瞰イメージ
- 右下：南東側からの鳥瞰イメージ

8 工程計画

・滝野中学校周囲の造成工事後、増築校舎新設工事を行います。増築校舎完成後、長寿命化改修工事、アフタースクール新設工事を行います。



9 工程図

